

■メディカル・クリニックで星野医師が講演

北海道学生アメリカンフットボール連盟と北海道アメリカンフットボール協会主催のメディカル・クリニックが5月19日、札幌市生涯学習センター・ちえりあで開かれた。今年から北海道学連のアドバイザー・ドクターを務める神戸大医学部の星野祐一医師（北海道大アメフト部OB）が、「アメリカンフットボールの安全対策」をテーマに脳震盪の予防策や前十字靭帯損傷の再建手術などについて講演した。

クリニックは、選手やチームの安全意識を高めることを狙いに毎年この時期に開いている。北海道大、北海学園大、帯広畜産大、釧路公立大、室蘭工業大、東京農業大、北星学園大、札幌学院大、北海道科学大の選手とスタッフ約120人が出席したほか、オンライン参加者も講演に耳を傾けた。

星野医師は、「2023年の道内の事故集計でも骨折と脳震盪が増えている」としたうえで、「ヘルメットとボディの接触で起きる脳震盪は、正しいタックル技術の習得で予防が可能」と注意をうながした。また、ひざの強打などで起きる前十字靭帯損傷について「大腿四頭筋などの腱を移植する再建手術で治療できるが、復帰までに9カ月が標準」と、最新の治療事情を紹介した。このほか、日本大アメフト部の違法薬物問題を受けて、「甲子園ボウルとライスボウルではドーピング検査を行っている。市販の薬を使う際に迷ったら、スポーツ薬剤師に相談を」と呼びかけた。

メディカル・クリニックに続いて競技運営説明会と記録係講習会も行われ、競技運営担当の加納康寛理事、審判部の木原克規理事、記録担当の笠井悠矢理事がそれぞれ、注意点などを説明した。



プロジェクター画像を使いながら前十字靭帯損傷の再建手術などを紹介する星野祐一医師